

♪♪

『サロシナ』

当センター主催の第2回サロンセミナーは、平成二十年十月二十七日ホテルグランヴィア大阪で開催し、百十一名の参加をいただきました。

本セミナーでは、近畿運輸局長様からご来賓を代表してご挨拶を賜った後、元財務大臣の塩川正十郎先生を講師にお迎えして、「リスクをチャンスにしよう」というテーマでご講演をいただきました。

以下に、サロンセミナーの概要を掲載いたします。

◇ 開会挨拶 ◇

(財) 関西交通経済研究センター

会長 野村 明雄



財団法人 関西交通経済研究センターの会長を務めております野村でございます。本日は、当センターの「サロンセミナー」に多くの方々のご参加を賜り、誠にありがとうございます。

また、各務正人近畿運輸局長様をはじめ、日頃から何かとご支援・ご指導を頂戴しております行政・ご当局幹部の皆様には、公務にご多用にもかかわらずご臨席を頂戴し、あらためまして厚く御礼を申し上げます。ご挨拶を申し上げます。

さて、当センターが昨年より開催しております「サロンセミナー」は、関西の交通経

済の発展に係る幅広いテーマについて、賛助会員の皆さまはもとより、広く一般の方々にもご参加をいただきまして、各界の第一人者や有識者の方々にご講演を頂戴するものであります。第2回となる今回は、政界を引退された現在も数々の要職を務められつつ、政界のご意見番としてご多忙を極めておられる塩川正十郎先生を講師にお迎えし、「リスクをチャンスにしよう」というテーマでご講演いただきます。

皆さまご高承のとおり、2002年初め頃から息の長い回復基調にあった日本経済も、昨年のアメリカのサブプライムローン問題に端を発する金融危機や、一時よりは下落しておりますが、原油・原材料価格の高止まりが企業の収益と投資を圧迫し、消費マインドの落ち込みによって経済活動が減速する状況に陥っております。とりわけ、燃料価格の高騰と、金融機関の貸し渋り・貸し剥がしの問題は、中堅・中小の事業者が大多数を占めるわが国の運輸・交通業界に深刻な影響を及ぼしており、今後、早急な支援策が求められるところであり

ます。

このように厳しい状況にある我が国の経済であります。この関西におきましては、これまでの長きに亘る停滞を払拭するかのように、大阪湾ベイエリアでは大手製造業の新工場建設を核とした新たな産業集積が生まれ、また、今月19日に開通しました京阪中之島新線や阪神西大阪線の延伸、梅田北ヤード地区の再開発などの都市インフラの整備も着実に進んでおります。今後は、これらの好材料をいかに上手く活用し、経済成長につなげていくための行動が何よりも重要になってまいります。

そこで本日は、財務大臣を始めとする主要閣僚を歴任された塩川正十郎先生を講師にお迎えいたしまして、こうした好材料を有する関西経済が、さまざまな障害を克服し、創造的発展への道程を今後歩みにつけるために、何が求められ、何を為すべきかについてご教授いただきたい、と、このように思っております。

本日のセミナーが、ご参加いただいております。

ります皆さま方にとって有益で、今後のビジネスのヒントになることを祈念いたしますとともに、引き続き、私も財団法人関西交通経済研究センターに温かいご支援を賜りますよう心からお願いし、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

◇ 来賓挨拶 ◇

国土交通省近畿運輸局

局長 各務 正人氏



ご紹介いただきました近畿運輸局の各務でございます。本日は関西交通経済研究センターの第2回のサロンセミナー開催大変おめでとうございます。関交研はこれまで関西の運輸交通分野における重要な

シンクタンクとして、様々な調査研究をされてきたわけでございますが、昨年からは会員の皆様に対する情報発信にも力をいれられ、このサロンセミナーを開催されていると理解しております。

先ほど野村会長からも様々な話がありましたから、私からは繰り返しません。厳しい世の中の情勢でございます。今朝方のニュースでは日経平均が7500円を割ったということで号外まで出ておりました。その後少し戻したということですが、いすれにしても日本経済は非常に厳しい状況であると感じております。

こういった状況の中で今日、塩川先生から先ほどご紹介にあったような大変時宜を得た内容のご講演が頂ける訳であります。私も行政に携わるものとして是非今日のお話を参考にして、今後更に気を引き締めて仕事に当たって参りたいと思っておりますが、今日お越しになられた皆様にとりましても今後の事業のあり方、進め方のヒントになるような大変意義の

ある話を伺うことができるものと大きな期待をしているところでございます。このような場を設けていただいた関交研に對しまして、あらためて深く敬意を表し、甚だ簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。ありがとうございました。

◇ 講演(概要) ◇

「リスクをチャンスにしよう」

元 財務大臣

塩川 正十郎 氏



◇ もっとおびやかな世の中に ◇

日本の景気をよくするには、“もっとおびやかな世の中に”しなければいけない。

そのためには、日本の世相、考え方、見方が一部のマスコミに扇動されており、日本人自身が冷静に物を見る目と、自己責任ということをしっかりと自覚すること。景気を、経済をうつつしい、元気のないものになっているのは、我々自身である。また、日本の経済の拡大、活性化のために企業や国民が、本当に困っているのは何なのか”を見極めたうえで具体的な対策を講じる。

◇ 金融問題 ◇

金融問題については、日本のようなきつちりした金融政策をやっている国は、今まで世界にはない。

アメリカの財務省は、公的資金投入に係る適切な処置を怠ったと指摘するなど、サブプライムローン問題における金融政策は間違っている。その一方、日本政府のバブル期の適切な不良債権処理が、現在の日本の金融の体質を強化”してきた。

◇ 新しい経済活動 ◇

公共事業が削減される中で、新しい経済

活動の分野を広めていく必要がある。そのためには、“積極的な改革の精神を持った取り組み”をしなければならない。

その一つとして、P.F.I.等の新しい都市開発手法を積極的に取り入れることによって、公共事業に代わる資金需要の発生と仕事の創出が可能となる。また、公営住宅の再開発の根本的なやり直しと、この財産の活用によって経済繁栄の機会が創出される。

◇ 学校の問題 ◇

学校の問題については、地域によっては東京のように小・中学校の“学区制を撤廃することによって自由化”をし、また、刺激を与えることで地方の教育も活性化される。また、PTAも学校に対する親としての責任と児童に対するしつけをきっちりとする。

◇ 社会補償制度 ◇

高齢化の進展等社会情勢に変化が生じ、“社会補償制度自身が矛盾”をきたしていることから、制度を抜本的に変える。

また、医学、薬学の進歩に応じた医療体制をとってこなかったため、医者が過重労働になり、結果として医者不足が生じている。後期高齢者医療制度を医者の問題としてではなく、“国民運動として健康保険”を考える。

◇ おわりに ◇

要するに、この際、空気を変えるということ。ちょっとしたミスのためにやたらに騒がない、行き過ぎた対策のおかげで多くの善良な市民が不愉快な思いをしている。それが食糧にも、お金の方にも出てきた。その反面、まったく自己責任ということをおぼえてしまい、全部他人のせいにしてしまっている。

こういふところに日本の今の暗い空気があるわけで、“この暗い空気を一掃”しない限り、本当に日本の経済



が明るく豊かに、活力のあるものにならないだろうと思います。

(了)

◇ 閉会挨拶 ◇

(財) 関西交通経済研究センター

理事長 野崎 典重



塩川先生には大変有意義なお話をいただき本当にありがとうございました。私どもセンターは、先ほどの皆様のご挨拶にもありましたように、昨年からサロンセミナーというものを始めておりまして、今年が第2回目でございます。このセミナーはできるだけ今の時代、社会のニーズを的確に捉えて、それを皆様にお伝えしていくという趣旨のものをいきたいと思います。

今年はどうなただにお願いしようかということで、塩川先生にお願いいたしました。今日のお話はいかがだったでしょうか。皆様方にはどのような印象を持ってもらえるかわかりませんが、恐らく今後の色々な活動に当たってご参考になった話が多かったのではないかと考えております。

私どもセンターも今後ともこういった活動に取り組みまして、できるだけ会員の方、地域の皆様方のお役に立ちたいというふうに思っておりますので、どうぞ引き続きご協力をお願いしたいと思います。

最後になりましたけれども、重ねて塩川先生に謝意を表しますと共に、今後とも当センターにご支援を賜りますようお願いを申し上げます。簡単ですが、誠にありがとうございます。閉会の辞とさせていただきます。本日は皆様本当にありがとうございました。

